

第8章 モデルプロジェクト

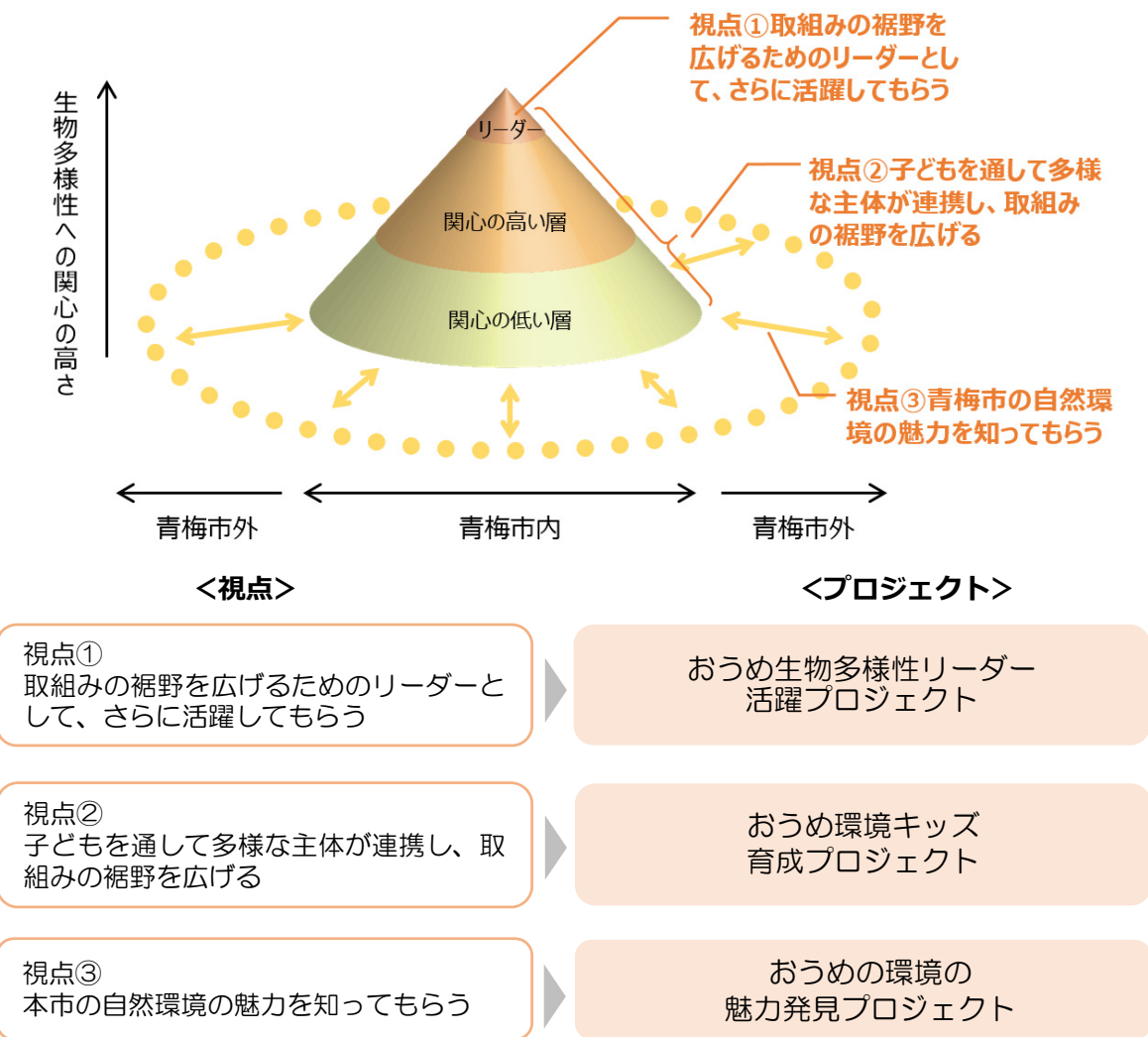
1. モデルプロジェクトの位置づけ

本市の生物多様性を将来にわたり保全していく上で、特に大きな課題に対応する取組みで、かつ、「青梅ひとと生き物イキイキプラン」全体の先導的な役割を果たす取組みを、モデルプロジェクトと位置づけ、取組み内容や目標をより明確にしなが、アクションを展開します。

本市において、生物多様性への理解が十分に進んでいない現状をふまえ、「人」に着目し、環境や生き物に興味を持ってもらう・知ってもらう取組みを進めます。市民、市民団体、事業者など多様な主体や、多様な行政分野との連携により、継続的な取組みとなることを目指します。

2. モデルプロジェクト選定の視点

モデルプロジェクトの選定にあたっては、市民の生物多様性への関心の度合いを考慮するとともに、本市民はもちろんのこと、市外の応援団の力も借りながら、みんなで生物多様性保全の取組みレベルのアップを目指します。



3. モデルプロジェクトの進め方

それぞれのプロジェクトは、計画期間（10 年間）を短期・中期・長期の大きく3段階で捉え、それぞれの時期での達成目標を見定めながら、必要な取組みを実施していきます。

中・長期的な取組みは、前期の取組み成果や課題、その時々々の社会情勢等をふまえ、柔軟に見直しながら最適な取組みを進めることとします。

<短期・中期・長期の各段階における取組みのイメージ>

短期的な取組み
～2021 年頃

【既存の取組みの充実】

- 現行の制度やしきみを生かし、生物多様性の視点を充実させる工夫や、連携により相乗効果を生み出す工夫などを検討・実施していきます。

中期的な取組み
～2024 年頃

【新たな取組みの検討】

- 現行の制度やしきみを生かした取組みが軌道に乗った段階では、最終的な目標達成に向けて、新たに生じたニーズや課題に応じ、新たな取組みや必要なしきみについて、検討します。

長期的な取組み
～2027 年頃

【新たな取組みの実施・継続】

- 新たなしきみに着手し、継続的な取組みとして定着させていきます。

プロジェクトの最終目標

「生物多様性」の概念浸透・多様な主体の取組み展開

4. モデルプロジェクトの評価指標

モデルプロジェクトの最終目標の達成状況を評価する指標として、以下の指標を設定します。

「生物多様性」という言葉とその意味を理解している市民の割合[※]

現状（2015 年）

約 **3** 割



目標（2027 年）

5 割以上

※市民アンケートにおいて、「生物多様性」という言葉について、「言葉をよく知っており、意味もよく理解している」・「言葉を知っており、概ね意味も理解している」と回答した人の合計値

5. おうめ生物多様性リーダー活躍プロジェクト

1) プロジェクトの概要

生物多様性に関する専門知識を持つ方や、市内で生物多様性の保全・活用に関連する活動を実践している方、生物多様性の恵みを楽しむスペシャリストなどを「リーダー」と位置づけ、多様な市民を巻き込みながら取組みを進める上でのリーダーとして、より活躍してもらうことを目的とします。リーダーが本市の生物多様性の魅力や活動の楽しみの伝道師となることで、市民の活動全体が活性化することを目指します。

2) プロジェクトの最終目標と、各期の取組みイメージ

プロジェクトの最終目標と、短期・中期・長期の各期の取組みイメージは以下のとおりです。

短期的な取組み ～2021年頃

【既存の取組みの充実】

- 市内でリーダーとなりうる人材やその得意分野について、情報を集約したデータベースを作成します。
- 青梅市教育委員会と連携し、生涯学習の講座において、リーダーが講師役となり生物多様性に関連する講座を実施します。
- 青梅市シルバーマイスター制度と連携し、生物多様性の分野の専門家についても、マイスターとして登録できる制度とすることを検討します。
- おうめ環境フェスタなどのイベントの場を生かして、リーダーの活動紹介等の充実や、リーダー同士の情報交換の場の充実を図ります。
- リーダーが中心となって実施している生き物調査に、市民が参加できるしくみをつくります。
- リーダーの取組みを市のホームページ等で発信します。

中期的な取組み ～2024年頃

【新たな取組みの検討】

- リーダーの活躍・育成のための新たなしくみを検討します。

<新たな取組みの例>

- ◇ 市民が主体となって実施する学習会などに、リーダーが講師役として出張する「リーダー派遣制度」など、学びたい人・教えられるリーダーのマッチングのしくみづくり
- ◇ リーダーが後継者を養成する「リーダー養成講座」

長期的な取組み ～2027年頃

【新たな取組みの実施・継続】

- 新たなしくみを実施・継続していきます。

プロジェクトの最終目標

- リーダーの活躍の場が広がり、リーダーと一緒に本市の生物多様性の恵みを楽しむ市民が増えています。
- リーダーの持つ知識や技が市民に広がり、生物多様性の保全・活用に向けた市民の活動が活発になっています。
- リーダーが後継者を育て、新たなリーダーが活躍し、市民の活動がさらに活性化するという正のスパイラルが生まれています。

3) 取り組みの紹介 ～始まっています！リーダーの活躍！

市内では、さまざまな生物多様性のスペシャリストが活躍されています！

みんなで楽しく鳥の観察！荒井悦子さん（日本野鳥の会奥多摩支部）

身近な鳥から山奥にすむ鳥まで、本市でみられる鳥のことにとても詳しく、「おうめ環境フェスタ」をはじめとする市内の観察会で活躍されています。

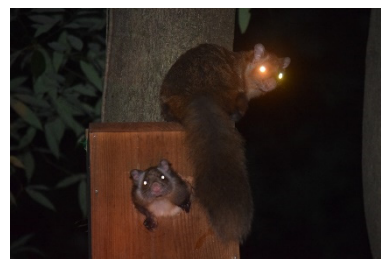
子どもたちの観察会では、いつも大人気！観察した鳥のことを発表する場を設けることで、子どもたちが自ら学ぶ姿勢を身につけるよう工夫して取り組まれています。



ムササビ親子のすめる森をめざして 熊谷さとしさん（青梅の森いきものネットワーク）

青梅の森に生息するムササビの調査、観察会などを通して、広く自然の大切さを伝える活動をされています。

ムササビの生息には、「繁殖場所（樹洞のある大木）」と「餌場（木の実などがある二次林）」の両方が必要です。青梅の森のような二次林では、餌はありますが、繁殖場所となる樹洞が少ないため、巣箱をかけて繁殖場所を設けています。



〔写真提供：熊谷さとし氏〕

ホタルのことをもっと知ろう！ 井上務さん（日本ホタルの会）

ホタルや身近な生き物が生息できる自然環境の保護・保全と再生のために活動されています。ホタルや身近な生き物の生息環境の調査、保全活動の支援のほか、ホタルや里山についての情報を分かりやすく発信しています。ホタルの光るしくみや、ゲンジボタルとハイケボタルの違いなどについて、模型や実験も交えながら、子どもたちにもわかりやすく、楽しく教えてくださいます。



有機農業を通して循環型社会づくり 柳川貴嗣さん（ヤナガワファーム）

市内で有機野菜の栽培をされている農家さんです。生ごみなどを堆肥として有効活用することで、おいしく栄養のある有機野菜づくりにつなげ、循環型社会の実現に向けて取り組まれています。創意と工夫によって企業的農業経営を確立している優秀な農業後継者として東京都農業会議会長賞・東京都知事賞を受賞され、将来の担い手として期待されています。

青梅の農作物の魅力について、「おうめ環境フェスタ」の講演会などを通して、子どもから大人までわかりやすく伝えています。



〔写真提供：柳川貴嗣氏〕

6. おうめ環境キッズ育成プロジェクト

1) プロジェクトの概要

未来の担い手である子どもたちに、本市の自然や環境に興味を持ってもらい、自発的な活動につながることを目的として取り組みます。

2) プロジェクトの最終目標と、各期の取組みイメージ

プロジェクトの最終目標と、短期・中期・長期の各期の取組みイメージは以下のとおりです。

短期的な取組み ～2021年頃

【既存の取組みの充実】

- 市内の学校における環境教育で、市内の生き物や生物多様性にかかわる教材や体験学習の場などの充実を図ります。
- 農業者や学校給食センターとの連携により、学校給食における地場農産物の活用や、地域の食文化を取り入れた献立づくり等を進めます。
- 学校や林業関係者と連携し、学校の校舎等に地元の木材を積極的に取り入れます。
- おうめ環境フェスタ等の場を生かし、エコキッズの取組み発表を充実させます。
- 地域学習等を生かし、地域の方にかつての自然とのかかわりや生活の知恵などを聞く機会の充実を図ります。
- エコキッズの取組みを本市のホームページ等で発信します。

中期的な取組み ～2024年頃

【新たな取組みの検討】

- エコキッズの活躍・育成のための新たなしくみを検討します。

<新たな取組みの例>

- ◇ 学校や地域で環境保全活動を行っている子どもを、「エコキッズリーダー」として本市が認定する新たな制度づくり（認定を受けると、生物多様性リーダーの派遣や、会議室の貸し出しといった支援が受けられる。）
- ◇ エコキッズ同士の交流の場としての「エコキッズサミット」の開催
- ◇ 本市の自然や生き物をテーマとした環境学習教材の作成
- ◇ リーダーとキッズ・地域の人たちが一緒になって、地域の生物多様性の恵みの魅力発見につながるマップを作成する取組みなど、キッズを中心に市民の活動が活発になるような活動の推進

長期的な取組み ～2027年頃

【新たな取組みの実施・継続】

- 新たなしくみを実施・継続していきます。

プロジェクトの最終目標

- 生物多様性に関する多様な学びの場が生まれています。
- 子どもを通して、大人やお年寄りなど幅広い世代や、多様な分野の関係者が連携し、家庭・学校・地域へと生物多様性保全の取組みの輪が広がり、地域が一丸となって取り組む機運が高まっています。
- 本市で育った子どもが、次世代の生物多様性リーダーを担っています。

3) 取組みの紹介 ～始まっています！青梅の将来を担う元気なキッズの取組み！

市内では、子どもたちが生物多様性について学びながら育っています！

愛鳥モデル校（河辺小学校）

河辺小学校は、東京都の「愛鳥モデル校」に指定されており、総合的な学習の時間や休み時間に、鳥の観察を通して、子どもたちが青梅の自然について進んで学んでいます。

鳥について詳しくなると「愛鳥博士」、「スーパー愛鳥博士」、「ウルトラ愛鳥博士」のテストを受けてランクアップしていきます！



〔写真提供：河辺小学校〕

こどもエコクラブ

「こどもエコクラブ」とは、幼児から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。子どもたちが人と環境のかかわりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題の解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることが目的としています。

市内には「おうめこどもエコクラブ」「エコクラブ「どんぐりの木」」のほか、学校単位で取り組んでいるエコクラブもあります。市内の農産物を使ったクッキングや、自然素材を使ったクラフトなどを通して楽しく環境について学び、活動しています。



7. おうめの環境の魅力発信プロジェクト

1) プロジェクトの概要

登山や自然体験を求めて市外から多くの人を訪れる本市の強みを生かして、市内外の人に向けて本市の生物多様性の恵みの魅力を発信し、応援団になってもらうことを目的として取り組みます。

2) プロジェクトの最終目標と、各期の取り組みイメージ

プロジェクトの最終目標と、短期・中期・長期の各期の取り組みイメージは以下のとおりです。

短期的な取り組み ～2021年頃

【既存の取り組みの充実】

- 観光分野との連携により、川、山、溪流、里山など多様な自然体験プログラムの充実とPRの強化を進めます。
- 本市の自然環境や、多様な恵みを生かし、本市ならではの観光商品をつくります。
- 地元で採れた新鮮な農産物や、多摩川の清流が育んだ魚など、本市ならではの恵みを生かした特産品やお土産品の充実とPRを進めます。

中期的な取り組み ～2024年頃

【新たな取り組みの検討】

- 本市の魅力発信のための新たな取り組みを検討します。

<新たな取り組みの例>

- ◇ 市のホームページに、自然や文化などの魅力を発信するページを新設
- ◇ 本市の生物多様性の魅力を伝えるパンフレットの作成
- ◇ 市外の方が、気軽に応援団になれるファンクラブの設立
- ◇ 生物多様性保全に取り組む意向を持つ事業者に、市が研究機関や市民団体等を紹介するなど、産官学が連携して生物多様性の保全に取り組む事業者とのパートナーシップ協定制度の設立

長期的な取り組み ～2027年頃

【新たな取り組みの実施・継続】

- 新たなしくみを実施・継続していきます。

プロジェクトの最終目標

- 市内外の人が、さまざまな場面で本市の生物多様性の恵みを実感しています。
- 市外の方に本市の自然や生き物の魅力を評価してもらうことで、本市民がそれらの魅力を再認識し、誇りを持つきっかけとなり、保全への意識が高まっています。
- 外部の応援団の力も借りながら、本市の生物多様性保全の取り組みが活発になっています。

3) 青梅市を訪れる人たち ～青梅のファンを増やしていこう！

四季折々の自然の恵みにあふれる本市には、都心からのアクセスの良さもあり、たくさんの人が訪れています。また、自然とともにある、歴史、文化、芸術、食なども本市の魅力です。

本市が誇る、豊かな生物多様性の魅力を発信していきましょう！

季節の花や生き物の観賞

青梅のシンボルである梅を鑑賞する吉野梅郷梅まつりや、塩船観音つつじまつり、みたけ山レンゲショウマまつり、吹上花しょうぶまつり、蛭を見る夕べ、カンタンを聞く会など、季節ごとの花や生き物を楽しむ行事・イベントがたくさんあります。



梅の公園



レンゲショウマまつり

〔写真提供：御岳ビジターセンター〕

自然環境を活かしたレジャー・スポーツ

御岳山や高水三山をはじめとした山々での登山や森林浴を楽しみに、多くの観光客が訪れています。丘陵地ではハイキングやキャンプ、多摩川ではカヌー、釣り、散策等が楽しめます。



御岳山 ハイキング



多摩川 釣り